

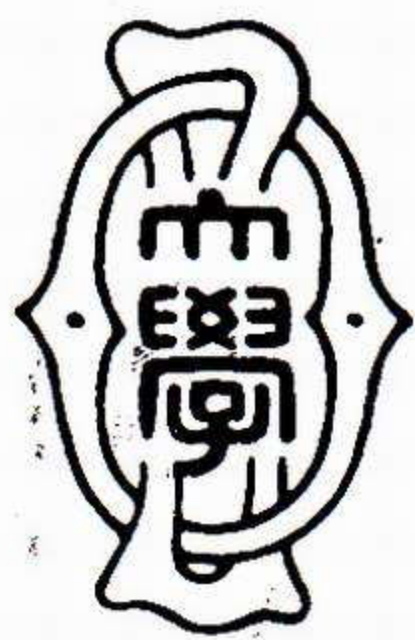
東西外大演奏会

第 1 回

東 西 外 大 演 奏 会

1 9 6 9 . 3 . 5

御 堂 会 館



大阪外国語大学グリークラブ



東京外国語大学グリークラブ

グリークラブが念願の東京外大との合同演奏会を開くことになりましたこと、まことにうれしく思います。両外大の間には、スポーツの面では、すでに大正末年から現在まで、途中戦争による中断はありましたが、毎年交歓試合が行われており、両大学の学生にとって楽しい年中行事の一つになっていますが、今回更にグリークラブの合同演奏会が加わり両大学の友誼は益々深まることと存じます。この催しに参加される両大学の学生諸君が、日頃練習のほどを遺憾なく発揮して頂きたいのはもちろんのこと、ご参会くださった皆さまの適切なお批判、ご指導によって、この催しが今後益々充実し発展することを祈ってごあいさついたします。

大阪外国語大学長 金子二郎

私達両大学は、スポーツ面では定期対抗戦の長く輝かしい伝統を有しておりますが、合唱音楽の上でもかねてからの念願が実を結び、合同演奏会開催のはこびになりましたことは誠に喜ばしいことと思います。東京外語大は昨秋10月中旬無期限ストライキに入り、現在なお紛争中ではありますが、その困難な状況の下で、部員一同練習に励んで参りました。

私達のクラブは歴史も浅く、固有のカラーを打出すに至っておりませんが、合唱にかけた情熱という点では名門グリーにも決してひけをとらないと自負しております。今宵の演奏に於てそのいくばくかでも感じて頂ければ幸いです。

今回の演奏会を機に、両グリークラブの交流が定期化することを願うと共に、私達の大阪行に際して労を厭わず万端お世話下さった大阪外大グリークラブ部員各位に対し厚くお礼申し上げます。

東京外国語大学グリークラブ部員一同

今宵お忙しい中をようこそお越し下さいました。心からお礼申し上げます。今日、ここに東京外国語大学グリークラブを迎え、第一回東西外大演奏会を開催できますことは、偏に皆様方の暖かい御支援の賜物と深く感謝致します。

今回の演奏会は私達を取巻く諸条件の為、その開催が危ぶまれておりましたが、合唱を愛する心に結ばれ、細やかながら第一回演奏会開催の運びとなりました。この第一歩を私達は誇りに感ずると共に、技術的には未だ未熟ではありますが、今宵日頃の力を十二分に発揮し、すばらしい演奏を行ない、皆様方に御満足して頂ければ、これこそ私達の最大の喜びであり、皆様方の御支援に対するお礼であると確信致しております。芽を出したばかりの私達の交歓演奏会ですが、ごゆっくり御鑑賞下さいまして、率直な御批判、御鞭撻を賜りますれば、何よりの収穫と存じます。

最後に、演奏会開催に御協力頂きました関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

大阪外国語大学グリークラブ部員一同

エール交換

I 世界の民謡

東外グリークラブ

わがふるさと

指揮 大島 哲蔵

ピリカピリカ

コサックの子守歌

ローモンド湖にそいて

大漁祝い

第一ステージは東京外語グリーの世界の民謡です。私達日頃さまざまな言語を学んでいますが、今日はその特色を生かして原語に忠実に歌いたいと思います。各国の言葉それぞれ独特のアクセントがあり、語感の味わいも又さまざまなものです。民謡性豊かな旋律とこれらが微妙にむすびつき「民族の心」である民謡が誕生します。ロシアの哀愁、スコットランド魂等、歌いつがれた香気を充分お楽しみ下さい。

わがふるさと（アストゥリアス民謡）

アストゥリアス なつかしの

アストゥリアス わがふるさと

ひとたびはアストゥリアス 訪ねゆきたまえや

高き樹に登り 花を手折りで 君にぞささげなん

園のほとりにて 君にぞささげなん

ピリカピリカ（アイヌ民謡）

ピリカピリカ タントシピリカ

イナングルピリカ

ヌンケクスネ ヌンケクスネ

代表的なアイヌ民謡です。御存知の方も多いでしょう。子供達が、かごめ遊びをしながら歌います「今日はよいお天気だ どなたが好き えらんであげよ」

コサックの子守歌

ねむれや コサックの

いとしごよ／＼

そらにてる月みてねむれ

コサックの母親が子供に歌った子守歌の一つで、コサックとは一種の農民兵で、ここでは、母親が自分の子供がやがてコサックとして出征する時のことを思いながら膝元の嬰兒を寝かしつけるという曲です。静かな、美しい旋律は、物悲しい謂わばロシア的憂愁とでもいうようなものをかもし出しています。

ローモンド湖にそいて（スコットランド民謡）

あの美しい岸边と丘に囲まれ

ローモンド湖は日の光に明るく輝く

しかし 恋人よ

私達は再びめぐり会うことはないだろう。

ローモンド湖のあの美しい岸边では――

スコットランド山岳地帯で最大の湖である

ローモンド湖畔で、恋人との別離を歌ったものです。

大漁祝い（福島県民謡）

福島県相馬中村地方を中心にして歌われる民謡です。漁師が、大漁を祝いながら、

3拍子に合わせて、力強く、元気にうたう喜びの気持が、波のように、聞く者の胸に迫ってくるようです。尚この曲は、全日本合唱連盟主催の1967年度合唱コンクールの課題曲に選ばれたものです。

II 男声合唱組曲

「中原中也詩集」

阪外グリークラブ

北の海

指揮

安藤 雅之

早春の風

作曲

多田 武彦

汚れっちまった悲しみに

作詩

中原 中也

月の光

また来ん春

現実的な煩悶と絶対に対する憧憬との交錯—— その意味では詩人中原中也は Romantic の変形である。生活伝統に於ける外的規制、外的秩序の拒否は、彼の内的創造性を奮起せしめ、自己主張と云う形態で以って詩に表われる。

然し、それは生に対する積極的な主張ではなく、倦怠や虚妄、或いは一種の不安を伴った消極的、破滅的な人生論的主張である。尚この「中原中也詩集」は「中原中也の詩より」と「在りし日の歌」からの抜萃構成です。

北 の 海

海にいるのは
あれは人魚ではないのです
海にいるのは
あれは浪ばかり
曇った北海の空の下
浪はところどころ齒をむいて
空を呪っているのです
いつはてるとも知れない呪
海にいるのは
あれは人魚ではないのです
海にいるのは
あれは浪ばかり

青き女の顎かと
岡に梢のとげとげし
今日一日また金の風……

汚れっちまった悲しみに

汚れっちまった悲しみに
今日も小雪の降りかかる
汚れっちまった悲しみに
今日も風さえ吹きすぎる
汚れっちまった悲しみは
たとえば狐の革裘
汚れっちまった悲しみは
小雪にかかってちちこまる
汚れっちまった悲しみは
倦怠のうちに死を夢む
汚れっちまった悲しみに
いたいたしくむ怖気づき
汚れっちまった悲しみに
なすところもなく日はくれる

早 春 の 風

今日一日また金の風
大きい風には銀の鈴
今日一日また金の風
女王の冠さながらに
卓の前には腰を掛け
かびろき窓にむかいます
外吹く風は金の風
大きい風には銀の鈴
今日一日また金の風
枯草の音の悲しくて
煙は空に身をすさぶ
日影たのしく身を煽ぶ
鳶色の土かおるれば
物干竿は空に往き
登る坂道なごめども

月 の 光

月の光が照っていた
月の光が照っていた
お庭の隅の草叢に
隠れているのは死んだ児だ
月の光が照っていた
月の光が照っていた
おや、チルシスとアメントが
芝生の上に出て来てる
ギタアを持っては来ているが
おっぼり出してあるばかり
月の光が照っていた
月の光が照っていた

またこん春

また来ん春と人は云う
しかし私は辛いのだ
春が来たって何になる
あの子が返って来るじゃない
おもえば今年の五月には
おまえを抱いて動物園
象を見せても猫といい
鳥を見せても猫だった
最後にみせた鹿だけは
角によっぽど惹かれてか
何とも云わず 眺めてた
ほんにおまえもあの時は
此の世の光のたゞ中に
立って眺めていた つけが……

PROGRAMME

Ⅲ 男声合唱組曲

「大中恩作品集より」

東外グリーンクラブ

いとおしい日々	作詞	阪田 寛夫
ひとり林に	作詞	立原 道造
うたおう	作詞	大中 恩
春宵感懐	作詞	中原 中也
音立てて	作詞	阪田 寛夫

指揮	佐久間 実
作曲	大中 恩

大中恩の作品は、オーソドックスなアンサンブルに立ちながら、実に多彩かつ斬新な一面を持っている。詩への自由自在な対応の仕方など独創的と言えるだろう。そして実によく「ハモ」らせて男声合唱する喜びを味あわせてくれるかと思うと、複雑きわまりない不協和音で挑戦してくる。その挑戦に耐えた時、協和音のみをよしとする我々の概念の前に、不協和音に裏打ちされた新しい音の世界を現出させてくれる。

いとおしい日々

まひるまの太陽を
両肩でうけとめて
うたごえをなげかえそう
はるかにはがね色の森のかけ
ぼくらのお墓の行列も見える
だが ぼくらいま
生きていてよかったとうたう
その声がみどり色にもえさかる
いとおしいまたとなき日々

ひとり林に

だれも 見ていないのに
咲いている 花と花
だれも きいていないのに
啼いている 鳥と鳥
通りおくれた雲が 梢の
空たかく ながされて行く
青い青いあそこには 風が
さやさや すぎるのだろう
草の葉には 草の葉のかけ
うごかないその ふかみには
てんとうむしが ねむっている
うたうような沈黙に ひとり
私の胸は溢れる泉! かたく
脈打つひびきが時を すすめる

うたおう

歌があれば何もいらぬ
歌こそわが力、わが命

歌え歌え 楽しい時も
歌え歌え 悲しい時も

歌っていれば酒もいらぬ
歌っていればタバコもいらぬ
日がな一日 歌え

可愛い娘の頬笑みも
歌っている時は問題じゃない

それは本当か?

ほんとうだ!

春宵感懐

雨があがって 風が吹く
雲が流れる 月かくす
みなさん 今夜は 春の宵
なまあったかい 風が吹く
なんだか 深い 溜息が
なんだからかな 幻想が
湧くけど それは 攪めない
誰にも それは 語れない
誰にも それは 語れない
ことだけれども それこそが
いのちだろうちゃ ないですか
けれども それは 示かせない
かくて 人間 ひとりひとり
ところで感じて顔見合せれば
にっこり笑うというほどの
こととして一生過ぎるんですね
雨があがって 風が吹く
雲が 流れる 月かくす
みなさん 今夜は 春の宵
なまあったかい 風が吹く

音を立てて

音立てて
今年が崩れて行く
もうあと少しで
のぼりつめるところだったのに
月と日が崩れ
明日と昨日が崩れ
がらがらと音立てて崩れ
互様の街を
おれは走る走る

Ⅲ 黒人霊歌

Go Down Moses

阪外グリークラブ

Wade In De Water

指揮 天野 邦彦

Deep River

Jerusalem Morning

He Never Said A Mumblin' Word

Soon Ah Will Be Done

主はモーゼに命じた。「ファラオの許に行きて告げよ。我に仕える(を信ずる)民を解きて行かしめよ。」と

Go Down Moses (行けモーゼ)

圧制の解放者モーゼを憧憬する歌で、出エジプト記に恩人は自分の境遇を見い出しています。

Wade in De Water (海を渡れ)

主に向って歌え。彼は輝しくも勝利を得られた。彼は馬と乗り手を海に投げ込まれた。黒人は、主が彼等の救い、力となることを願いました。

Deep River (深い川)

深い川、おお主よ、私は河を越えてあの懐しい土地に行きたい。ヨルダン河の彼方にある私の家に……と歌われるもので、自由と幸福を求める悲痛な心情のあふれている歌です。

「さあ語って下さい。イエルサレムの朝の事を。主の事を。私を狂むしくさえさせる神の事を。私に話して下さい。」

Jerusalem Morning (イエルサレム モーニング)

苦しい生活を送っていた黒人は、キリスト教にその救いを見出し長老達の話を通じてその教えを学んだのです。

He Never Said A Mumblin' Word (一言も洩らさず)

十字架につけられたイエスが、一言も苦しみを口にされなかった姿を思い、その尊さの余り、黒人は彼等の苦悩を、わずかの時間ではあったが忘れることが出来ました。

「おお自由を おお自由を 自由を我等に 奴隷たらんより 死して葬られ我等神のふるさとに 自由とならん」

Soon Ah Will Be Done (やがて天国へ行くけ日が)

生命の炎が消えると、この世の辛苦ともおさらば。早く死んで、天国のイエス様のところに行きたいものだ。

PROGRAMME

V ドイツ歌曲

合同演奏

Der Frohe Wandersman	作曲	Mendelssohn	指揮	大島 哲蔵
Der Lindenbaum	作曲	Schubert		
Die Nacht	作曲	Mendelssohn	指揮	天野 邦彦
Gottes Rath und Sheiden	作曲	Schubert		

Schubert Mendelssohn の曲を2曲ずつとりあげてみました。彼等については今更説明を要しないでしょう。どうか充分にお聴き下さい。

Der Frohe Wandersman (楽しきさすらい人)

恵まれしものこそ 世をばめぐりゆけ
自然の驚きは
森、岩、野にみつ
山辺にわく泉 野にうたうひばり
いざ我もうたわん 自然をたたえて
神こそかしこけれ 山河をつくり
日、月、星をささえ 善きをば為したもう

Die Nacht (夜)

美わし 静けき憩いよ
みよ星の影は 清くまたたきて
われらみまもるよ
静けき空のかなたに

美わし 静けき憩いよ
なごむそよ風に 大地はゆるみて
荒野の花も
水辺の苔さえ待つ春の訪れ
荒野の花さえ待つ春の訪れ

Der Lindenbaum (菩提樹)

泉にそいて 茂る菩提樹
慕い行きては うまし夢みつ
幹には彫りぬ ゆかしことば
うれしかなしに 訪いしその影

今日もよぎりぬ 暗き小夜中
真闇に立さて まなこ閉ずれば
枝はそよぎて 語るごとし
来よいとし友 ここに幸あり

Gottes Rath und Sheiden (別れの歌)

いとしき者共 さだめのまにまに
別れを告げめ この世に悲しき者こそ 別れよ
別れ 別れ 別れ
バラの花束を 水がめにさして
見よや 見よや
明日に開きて 夕べはしほむを
見よや 見よや 見よや
今われ別れて知らず またあう日
別れの言葉は さよなら さよなら
また会う日まで さよなら

東京外語大グリークラブ

我がクラブがうぶ声を上げたのは1963年12月のこと。それまで混声合唱団でしたが、どうしても男声合唱をやりたいと、「東外大男声合唱団」として再発足し、昨年末の第1回演奏会では名曲「月光とピエロ」、「柳河風俗詩」を歌って男声合唱の醍醐味を改めて確認したものです。以来、よちよち歩きながらも着実に実績を重ね、昨年12月に5回目の演奏会を催しています。メンバーの構成は、発足当時



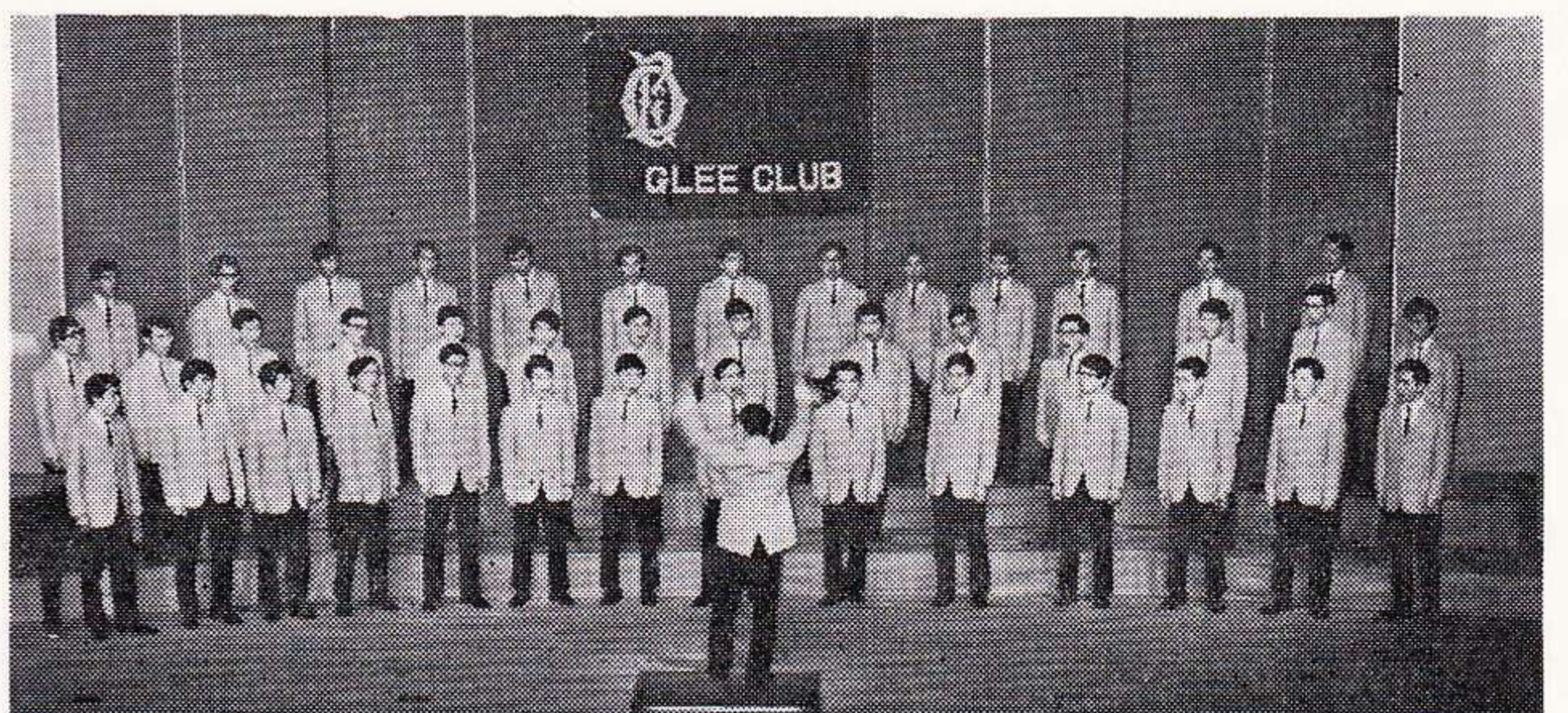
はドイツ、スペイン両科が優勢でしたが、今はロシア科が多数を占めています。人数の少いことは常に悩みの種で40人勢揃いして舞台に上ることを夢みて努力せるも未だ実現していません。しかしメンバーの一人一人は個性溢れ、人間的に興味のある者ばかりで、クラブはいつも活気に満ちています。——さて年間の活動のあらましをご紹介します。春休みに入るとすぐ、暖かい房総半島の海辺で春合宿。12月の演奏会目ざし本格的なスタート。磯の香りと咲き乱れる菜の花を満喫しつつ練習に励む。

4月新学期、新入生を迎えて大張り切り。猫をかぶっていたフレッシュマン達も歓迎会でその地を遺憾なく発揮。5月新入生歓迎合宿。寺にこもり、精進料理でたっぷりシゴかれる。6月、学内対抗レガッタ、東京都合唱祭、学内音楽祭と忙しい。8月、待望の夏の合宿。例年、「大阪はん」と隣合せて、白馬山麓の湖畔で1週間。「つめ込み授業」を受けると、あとは食いに食うこと、眠ることのみ。もっとも物好きな者は4人さんで一卓囲み徹夜。11月、紅葉を賞でつつ秋合宿、その成果を外語祭で示す。しかし何といても外語「祭」、歌って飲んでまた歌い……………。

そして12月の中旬、木枯の吹く中で、一年の総決算、定期演奏会。各人、万感を胸に秘め心をこめて一曲一曲歌い上げ、夢中で2時間があっという間に過ぎる。——考えようによっては平凡な一年間。しかしそこには歌がある。／

大阪外大グリークラブ

私達のクラブは、何しろ男ばかりの大世帯なのでその中ではバラエティーに富んだ現象が見られます。『グリーは恋人』とばかり、毎日下宿とクラブを往復し、上六あたりを徘徊し、教室へはめったに顔を出さないという者から、日本語のへたなインド人や英語とフランス語の発音では外大随一との噂を持つ御仁等、実に様々な連中が雑居しています。ここでそのサンプルのいくつかを紹介しましょう。



先ず登場するのはA氏。常にミズを飲みケムリを出し、勿論授業に出ることはなく、無邪気にも積木遊びやおはじきをするそう。年に数回は風呂にも入り（32円は高い。／）部員の技術の低さを嘆いては「キミー、芸術は感情と理性のユーゴブツなんだバイロンはネー……」等々おっしゃる。典型的なグリー語科生。（センパイ、ゴメンネ）お次は、上六界限で少しは名の知れたB氏。『立てば○○○坐れば○○、肩で風切るギャングラー』を自他ともに認めています。あるパチンコ店と雀荘から卒業証書が出るとか出ないとか。そのくせ部費の払いの悪いこと。

コンパともなれば、日頃の学生生活で出せない妙技を披露するオノゴが巷には多いものですが、歌のクラブなので各人多種の珍芸を持っているようです。一人が、「外語メイブツ数々アレド……」と『何とか節』を始めると、後ろの方でやおら起ちあがって……（映倫カット）……。この様に、色々な所で各人の能力を発揮しているようですが、練習ともなると、その団結力は抜群。指揮者がさっと手を振り下ろすと、見事な雑唱となって……。おや？もう一度やり直し同じ所を何度も歌わされ、こんな音痴に育てた両親を恨みつつ、指揮者の罵声にじっと耐え忍び、少しはうまくなったつもりで、この世のものとは思われぬ特異なハーモニーを再び創り出すのです。考えてみると、グリー部員とは夢想家なのではないでしょうか。雑唱を『合唱』に変えようと、毎日空しい努力を続けているのですから。

CLUB MEMBER

東京外国語大学グリークラブ

部 長	車 和 夫	マネージャー	平 尾 昌 宏
指 揮 者	久保木 一 政		永久保 繁 実
副指揮者	大 島 哲 蔵	会 計	定 本 博 明
	佐久間 実		

First Tenor

渡 辺 正 造	F ₃	(長 野)	林 秀 雄	E ₂	(別府鶴見丘)
内 野 隆 司	D ₃	(東 京 立 川)	秋 本 輝 夫	Po ₁	(東京神代)
○平 間 義 康	R ₂	(横 浜 桜 丘)	岩 井 正 秀	E ₁	(東京日々谷)
佐久間 実	D ₂	(神奈川栄光学園)	金 谷 正 二	F ₁	(愛知旭丘)
永久保 繁 実	D ₂	(東 京 九 段)			

Second Tenor

久保木 一 政	H ₃	(千 葉 佐 原)	久保田 文 明	R ₁	(東京立川)
小 高 智	R ₃	(金 沢 泉 丘)	武 藤 厚 広	R ₁	(東京立川)
平 尾 昌 宏	Po ₂	(東京小石川)	上 原 信 吾	E ₁	(函館ラサール)
○近 藤 崇 雄	D ₁	(岐 阜)			

Baritone

安 川 修 三	E ₄	(東京墨田川)	定 本 博 明	Po ₁	(徳島城南)
車 和 夫	R ₃	(金 沢 泉 丘)	田 村 伸 一	D ₁	(前 橋)
○古 川 久 継	F ₂	(函館ラサール)	金 子 広 告	S ₁	(東京西高)
武 藤 敏 之	T ₁	(福 岡)			

Bass

田 中 正 之	E ₄	(東京麻布)	大 島 哲 蔵	R ₂	(甲陽学院)
沼 逸 郎	E ₄	(富 山 砺 波)	○小 林 隆 篤	C ₁	(東京立川)
田 悟 恒 雄	R ₃	(東京武蔵丘)	平 川 博	D ₁	(静 岡)

○印はパートリーダー

C (中国語)	D (ドイツ語)	E (英米語)	F (フランス語)	H (ヒンディ語)
Po (ポルトガル語)	R (ロシア語)	S (イスパニア語)	T (タイ語)	

中 華 料 理 な ら

南 海 飯 店

上六中通り西入る

TEL (771) 4185

CLUB MEMBER

大阪外国語大学グリークラブ

顧問	住田 照 夫	マネージャー	小竹 正幸
部長	柳沢 長四郎	〃	南 雄次
指揮者	天野 邦 彦	内 渉	明場 幹夫
副 〃	松岡 一 仁	会 計	鵜飼 茂

First Tenor

板 村 哲 也	S ₄	(甲 陽)	柳 楽 行 雄	S ₃	(出 雲)
藪 庄 治 郎	T ₄	(膳 所)	小 竹 正 幸	R ₂	(金沢二水)
天 野 邦 彦	E ₃	(倉 吉 東)	葉 山 英 行	E ₁	(島 田)
○遠 藤 弘 三	D ₃	(住 吉)	藤 原 克 司	R ₁	(天 城)
徳 永 光 庸	R ₃	(茨 木)			

Second Tenor

安 藤 雅 之	E ₄	(一 宮)	○山 口 正 晴	E ₃	(今 宮)
塩 見 憲 一	E ₄	(芦 屋)	明 場 幹 夫	R ₂	(倉 吉 東)
村 上 剛	S ₄	(今 治 北)	加 藤 直 樹	S ₂	(小 倉)
佐 藤 謙 司	S ₃	(一 宮)	勝 田 茂 俊	P ₁	(塔 南)
日根野谷 博	I ₃	(三 国 丘)	木 村 長 俊	E ₁	(福井藤島)
村 田 要志夫	S ₃	(池 田)	宮 原 康一郎	E ₁	(那 覇)
柳 沢 長四郎	N ₃	(野 沢 北)	山 本 修 司	E ₁	(茨 木)

Baritone

梶 江 清 史	N ₄	(福山葺陽)	鵜 飼 茂	N ₂	(甲 賀)
浜 崎 慎 吾	R ₄	(兵 庫)	河 嶋 靖 夫	P ₂	(加 悦 谷)
○井 上 尚 弘	C ₃	(綾 部)	松 岡 一 仁	E ₂	(阪 南)
奥 野 薫	R ₃	(西 舞 鶴)	南 雄 次	R ₂	(八 尾)
小野田 裕 司	E ₃	(高 岡)	岡 本 精 二	E ₁	(神 戸)
坂 本 正 稔	I ₃	(福井三国)	後 藤 久 義	K ₁	(杵 築)
林 秀 樹	E ₃	(旭)	竹 尾 彰	N ₁	(西 南)

Bass

大 井 耐 三	S ₄	(広大付属)	西 村 裕	E ₃	(御 影)
野 間 清 治	E ₄	(茨 木)	○真 鍋 一 史	D ₃	(新居浜西)
三 沢 弘	C ₄	浪 速)	奥 村 茂	S ₂	(四 日 市)
家 城 義 男	H ₄	(豊 岡)	内 海 也 卓	A ₁	(東 舞 鶴)
竹 井 禎	E ₃	(丸 亀)			

○印はパートリーダー

A (アラビア語)	C (中国語)	D (デンマーク語)	E (英語)
H (インド語)	I (イタリア語)	K (朝鮮語)	N (インドネシア語)
P (ペルシャ語)	R (ロシア語)	S (イスパニア語)	T (タイ語)

洋 酒 バ ー

か わ し ま

天王寺区東平野3-29

TEL (772) 2210

